（郷土）奥殿小学校　６年

奥殿の伝統「わらびがり・販売」を成功させよう

４月（12時間）

１　ねらい

奥殿の自然の恩恵や季節感を感じとったり，地域の人々と交流したりすることによって，ふるさとを愛する心を育てる。ふるさと奥殿の文化・自然に親しみ，地域の人とのつながりを深めることは，地域を理解することであり，多文化共生の基盤になると考える。わらびの芽を採ることで有限性を意識させ，よりよい方法を工夫して地域の方への販売活動まで行うことで，計画を立て，多面的・総合的に考え，コミュニケーションを行う力を伸ばすこともできる。

２　実践の概要

（１）目標

①　わらびがりを通してふるさと奥殿の自然に触れ，地域の現状や変化への関心をもつとともに，自分たちは命をいただいて生きているということに気付く。

②　通学団という異学年の集団でリーダーとして下学年をまとめるために，自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を身につける。

③　わらびを販売する活動を通して，計画や見通しをもって課題をはっきりさせ，実践をする力をつけ，さらに周囲の方々の温かい援助に気づき感謝の気持ちをもつ。

（２）わらびがりに向けた準備

～５年生までの自分たちの体験と今まで先輩が積み上げてきた知恵を生かす～

６年生は，４月，始業式の翌授業日から早速わらびがりに向けての準備に取りかかった。

子供たちは，先輩が取り組んでいた様子を見ており，断片的ではあるが，６年生がどんなことをすればいいか知っていた。まず，全体でわらびがりに向けての準備について話し合い，分担を決めていった。教師も，必要に応じて昨年度までの反省を伝え，今年に生かせるよう助言した。わらびが出そうなところの探索から始まり，地主さんへのお願いや場所の下見，わらびの販売について地区への周知，採ったワラビの処理方法の検討，販売の仕方の工夫などを話し合った。

子供たちは，わらびの販売を知らせるポスターを作り，家庭訪問の日の午後を利用し，市民ホームや子どもの家，保育園などに自分たちで貼りに行った。

わらびがりについて全校に分かりやすく伝えるために，原稿やフリップを準備して，1年教室に説明に行ったり，昼放送のカメラの前でしっかりと話をしたりした。

今まで自分たちが６年生にしてもらっていたことを，今度は自分たちが行った。課題をはっきりとさせ，それを解決するための方法を考え実践する力をつけるうえで，伝統あるわらびがりの活動は，考える拠りどころが今までの体験に基づいたものであるので子供たちにとって取り組みやすいと考える。

（３）わらびがりで見られた配慮

当日の活動の様子は右の資料のとお

資料　わらびがりの実際

①　各通学団の集合場所に集まる。（８：００～８：３０）
②　山の中に入り、わらびがりを行う。
③　採ったわらびを持って、通学団ごとに登校する。
④　午前 10 時 30 分頃、学校に到着，わらびを集める。
⑤　長さを揃えて 100ｇずつ束ね，値付けをする。
⑥　奥殿陣屋前で販売し、収益金は児童会活動にあてる。

りである。

わらびを採らせていただく場所は，急な傾斜も多い。高学年の子供たちは，足場をよく確かめて，１年生の手を引き，けがのないように十分留意することができた。わらびを見つけても，自分で採るのではなく，手を引いている１年生の子に採らせてあげていた。自分たちがしてもらってうれしかったことを今度は自分がしてあげようという，優しい気持ちが受け継がれていることを感じた。社会に出て人とつながって生きていくためにも忘れないでほしい気持ちである。

わらびがりで，１年生の手を引く高学年の児童

（４）わらびの販売での工夫

わらびの販売は，子供たちが一般の方を相手に実際に経済活動を行うことのできる，貴重な体験の場である。いろいろな課題を予想し，その対策を事前にしっかりと考えさせた。わらびの収穫量に合わせ，より多くの方に買っていただけるよう購入量に制限を設けたり，お客さんの並ばせ方や会計の場所など配置を工夫したり，おつりを渡す練習を声を出して行ったりして，混乱やミスのないようしっかりと準備をして販売活動に臨んだ。

奥殿陣屋前で販売。子供たちはかごを持ってお客さんを会計場所までエスコート。支払い場所で滞らないよう，長机を２つ準備。袋詰め，計算，お金の受け取り，おつりの準備と仕事を分担。ミスなく，手際よく。

（５）わらびがりを終えて

６年生として，わらびがりをやり終えた子供たちは，下級生をリードしていく大変さと，相手に理解してもらえるよう，思いを伝える力の大切さ，先輩たちの知恵を生かしさらに自分たちで工夫しやりとげる楽しさを学んだ。今年度気付いたことをきちんと記録し，来年度の６年生に引き継いだ。

わらびがりを終えての６年Ａ子の言葉

６年生にとって、わらびがりは今年が最後です。私が参加した桑原では、たくさんのわらびがとれました。私は、20 本以上とることができました。

５．６年生が担当するわらびがり準備はとてもたいへんでした。売る練習をしたり大きい荷物をいっぱい運んだりしました。けれど、とてもたくさんのお客さんがわらびを買ってくれて、あっという間に完売しました。とてもうれしかったです。最後のわらびがりは最高でした。

３　実践を振り返って

わらびの採集にあたっては，よい採集場所を提供してくれたり，先に採られないようにロープで囲って看板を立ててくれたりと，地域の人の理解・協力が大きかった。教育活動の様々な場面で大きな協力を得ていることへの感謝の気持ちを忘れず，このつながりを大切にした体験活動を充実させていきたい。また，伝統的な行事を昨年同様に

行うのではなく，子供たちが，今までの知恵の積み重ねや体験を生かした追究ができるよう，教師が意図的に支援していくことを忘れてはいけない。